

中田かわら版 11月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

SDGsとは SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

■シリーズ「地球温暖化問題」<6>

深刻化する「異常気候」 もう待てない！

今年9月、パキスタンの国土の3分の1が浸水、6月から3か月で1400人以上が死亡したというニュースは衝撃的だった。6月からのモンスーンによる大雨が続き降水量は平年の7～8倍で過去最多となり川があふれ洪水、地滑りが発生したためという。国際研究チームは地球温暖化による気象変動の影響であると指摘している。



優秀賞 葛野小児童作品

ティッピングポイント(臨界点)という言葉がある。これは気温上昇が臨界点を超えると、変化が止まらなくなる現象を言う。例えばアマゾンでは気温上昇と森林の伐採がある点を超えると、樹木が減り水蒸気の蒸発が減る。雨が減り森林が枯れると蒸発が減ってくる。こうした悪循環が生じると樹木の枯死が止まらなくなるというのだ。やがてドミノ倒しのように連鎖していく危険性がある。世界の平均気温が2度上がると、こうしてどこかでドミノ倒しが始まり、もはや手が付けられない。その意味でも気候対策は急を要する重大課題なのである。

今回のパキスタンに限らず世界いたるところで台風、洪水、熱波、山火事が発生しているが、地球温暖化の異常気象が原因と考えられている。そのため最近では「気候危機」と呼ばれるようになった。ただ異常気象、気象変動といっても一般には、その深刻さが分からないからだ。しかも速い速度で危機が迫っているというから問題である。地球温暖化の要因は二酸化炭素(CO₂)であることは知られている。その濃度が今や415ppmに達しており、これは産業革命(1760～1820年)前の280ppmの5割も増加している。この地球が何百万年の単位でも400ppmを超えたことがなかったが、400を初めて超えたのは2013年だった。15年のパリ協定では「平均気温上昇を2度より十分低くさらに1.5度を目指す」と合意している。しかし、それには今世紀後半までに温室効果ガス排出をゼロにする必要性がある。

それに呼応するように9月23日、世界中の若者たちが「世界気候アクション0923」を企画し一斉に街頭行進を行っている。このアクションは米ニューヨークで開催中の国連総会に合わせ「地球温暖化対策の強化」を訴え、気候危機をアピール、行動したものである。東京・渋谷では大学生ら約400人が「気候危機を止めるには今しかない」と声を上げた。日本では30か所以上で街頭行進が行われた。同時に気候問題は行政や企業、市民らが一緒になり取り組んでいく問題であると提唱している。若者たちが気候危機問題に対し積極的に取り組み、その行動力は解決への大きなパワーになるだろう。未来に希望を与えるものだ。

(宮田貞夫)

～一人ひとりがCO₂を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

■ 泉区障がい者後見的支援室

「しーど」を訪ねて

河内 満明

長後街道 中田町根下信号の角、中田町センタービルの3階にある事務所を訪ねた。応対してくれたのは担当職員 前田 健さん=写真右である。「しーど」の存在はビルの1階に看板があり 3Fと書かれていて、それを見るたびにこの小さいビルの上階で福祉関係とは何だろうと気になっていた。訪問してみて初めて“障がい者と福祉施設”をつなぐ仕事をしているところだと分かった。パンフレットには「障がいがある方と、そのご家族の日々の不安や出来事、困り事や迷い、将来への希望などに耳を傾け・・・」つまり障がいに特化した分野での活動をする人達が働いている。運営は泉区地域活動ホームかがやきを運営する社会福祉法人いずみ苗場の会だ。



横浜市独自の障がい者後見的支援制度の泉区を担当する「しーど」は平成27年（2015年）発足して8年目に入り現在地には3年になる。窓が多く明るい事務所には机が8台ほどありこの日は職員3人が机に向っていた。廊下の壁一面に利用者さんたちの作品の絵が10点ほど飾られていた。強い個性を主張するようなもの



1階のセブンイレブンが目印

のは無かった。相談来訪はほぼ毎日あるらしく 前田氏は泉区全体を受け持ち多忙の様子だが「一口に障がいと言ってもいろいろ違いがある。世間の人々の理解を深めるためにその特性などを広く紹介して行きたい」と言う。また「8050問題」注)も頭を痛めている。モットーは「利用者さんが身構えることなく、気楽に話ができる相談員」だそうである。マスクを外した素顔は安心感を持たせるような柔らかな顔だった。笑顔の目が優しい、さすが福祉に携わって実働17年のベテランだ。

しーどでは「あんしんキーパー」を募集している。ご近所や町内会などで、障がいのある方を見守ったり、声をかけたり、話し相手になったりするボランティアさんです。

045-443-7911 前田氏あて。

注) 子どもの引きこもりの総称で80歳代の親が50歳代の子どもの面倒を見ている。親の死後子どもが自立できるのか等の問題。

編集後記

新聞（記者）は木鐸ぼくたくたれ一と言われる。昔、中国で法令などを知らせるときに鳴らす木製の大鈴のこと。転じて「世人を教え導く人」の意。新聞記者という職業は先生や公務員、サラリーマンとも違う。違いは文章を書くことにあるが、書くだけではなく、記事にして社会をより良くする使命感がある。自分でもわからない文章は書くな、という戒めもある。 (宮田貞夫)

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本 正

編集委員；山木重樹、小島敏子、田中 進、河内満明、松本純子、佐々木弘美、鈴木賀津彦、嶋 宏之